

梅雨の季節は、ジメジメして憂鬱でもありますが、アジサイを初めとして美しい花も楽しめますね。また家の中でのんびりと美味しいお菓子を食べながら、読書の時間を多く取って過ごしてみるのもお勧めです。

自宅で大好きなお茶とお菓子を頂きながら、雨音と共に読書とまいりましょう。

特設コーナーリニューアル

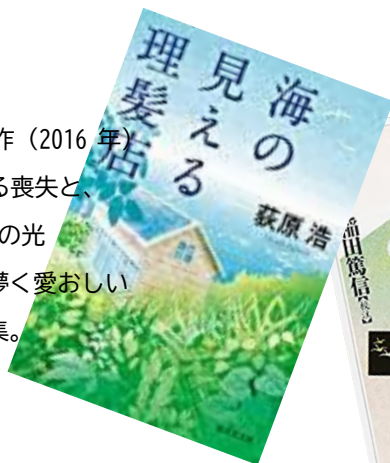


今月は食に関する本を取り上げています。

食事や健康についての情報はインターネットでも調べられますが、栄養学の基礎を学びたいなら、まずはきちんとした書籍で学ぶのが近道です。

今月のおすすめの一冊

直木賞受賞作(2016年)
人生に訪れる喪失と、
ささやかな希望の光
心に染みる儂く愛おしい
家族の小説集。



江戸時代後期に著わされた
読本作品。日本・中国の古典から
脱化した小説。



直木賞受賞作(2020年)
傷つき、悩み、惑う人びと
に寄り添っていたのは、
一匹の犬だった——

教授おすすめの一冊

クリスユール&クリストファー・ソープ著

『10代からの社会学図鑑』

(国際地域学部 天野剛至准教授)

中学生から読めるようにイラスト満載で編集された社会学の入門書です。取り扱っているトピックもアイデンティティから家族、人種・エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティ、エイジング、階級、貧困、教育、宗教、労働、犯罪、健康、メディアまで幅広く、この一冊で「社会学とはどういう学問か」がわかります。社会学が専攻でなくても、レポートのテーマを探すヒントになったり、専門的な学びのきっかけになったりと、大学での学びにいろいろ役立つでしょう。ぜひ1年生のうちに読んでおいてください。

同じシリーズに「心理学」と「宗教学」があります。こちらもおススメです！



石 弘之著

『図解 感染症の世界史』(KADOKAWA・2021年)

(国際地域学部 細井和彦教授)

同著者によるベストセラー『感染症の世界史』の図解版です。

感染症の歴史が簡潔にわかりやすく解説されています。見開き2ページに、解説文とイラストとグラフがあり、見て読めるのが特徴的です。

冒頭の「感染症年表」で、どの感染症が人類の命をどれだけ奪ったのかが一目瞭然です。はじめから読み進むこともできますが、自分の興味や関心に応じて、感染症の種類ごとに知識を得ることもできます。

新型コロナウイルス感染症について知りたいならば、第1章と第2章の後半→第6章→第9章と読んでいくと、インフルエンザとパンデミックの理解も進みます。まずは、目次を開いて読みたいページを開いてみましょう。本書を読んで感染症への興味が増したら、マクニールやダイヤモンドの著作にも挑戦してみるとよいでしょう。

図書館開館時間 9:00~18:20(授業日以外は 17:00 閉館)

※コロナウイルス感染拡大の状況に応じ変更になる可能性があります。

図書館カレンダーは鈴鹿大学ホームページをご覧ください。

※コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、現在学外の方角への開講を中止させて頂いております。

